

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

学習指導要領の内容		問題番号	出題のねらい		評価の観点	A設定通過率(%)	B通過率(%)	AとBの比較	
4学年	(3)ア(ア)	1	(1)	ア	市が、防災メールで私たちに必要な情報を知らせることを、資料から読み取っている。	知・技	70	67	－
	イ			自主防災組織が、避難場所に食料や水を届けることを、資料から読み取っている。	知・技	70	67	－	
	ウ			県が、自衛隊と連携しながら必要な支援を行っていることを、資料から読み取っている。	知・技	70	92	↑	
	(3)イ(ア)		(2)	資料から読み取れることを総合的に考え、市が、災害発生時に関係機関と協力して対応していることを表現している。		思・判・表	50	78	↑
3学年	(2)ア(イ)	2	(1)	資料1	消費者のためにスーパーマーケットで行っている工夫について、写真に合う文を選択している。	知・技	80	96	↑
	資料2			消費者のためにスーパーマーケットで行っている工夫について、写真に合う文を選択している。	知・技	80	94	↑	
	(2)イ(イ)		(2)	①	スーパーマーケットの入口付近にある駐車場について、障がいのある人等が、買い物しやすいという点に触れながら説明している。	思・判・表	80	66	↓
	(2)イ(イ)			②	スーパーマーケットでのリサイクルコーナーの設置、エコバッグ利用の呼びかけについての共通点を、ごみの削減に触れながら説明している。	思・判・表	50	66	↑
3学年	(1)ア(イ)	3	(1)	写真から読み取った土地の様子に適する地図記号を指摘している。		知・技	80	89	↑
	(1)ア(イ)		(2)	まち見学の様子をふりかえるカードが示す場所を指摘している。		知・技	60	75	↑
	(1)イ(ア)		(3)	地図の情報とまち探検の発見カードの内容を比較・統合しながら、まち探検の道順を表現している。		思・判・表	50	70	↑
	(1)イ(ア)		(4)	川の東側と西側を比較し、東側に人が集まっていると考えられる根拠を、地図から読み取った情報を用いて説明している。		思・判・表	60	46	↓
4学年	(4)ア(イ)	4	(1)	①	資料から、地域に住む人々の願いを読み取り、拾ヶ堰ができる前の苦勞を指摘している。	知・技	50	83	↑
	②			資料から、地域に住む人々の願いを読み取り、工事や修理をする苦勞を指摘している。	知・技	50	41	↓	
	(4)イ(イ)		(2)	拾ヶ堰が完成するまでの計画や工事の時期について、資料から要点を捉え、表現している。		思・判・表	50	60	↑
	(4)イ(イ)		(3)	資料から読み取った情報を関連付けて、まとめの文として適切なものを選択している。		思・判・表	50	30	↓
4学年	(5)ア(イ)	5	(1)	等高線の数値に着目し、3地点の土地の高さを指摘している。		知・技	60	66	↑
	(5)ア(イ)		(2)	2つの川の上流における等高線の間隔に着目して、間隔の狭い方の川を指摘し、その理由を読み取っている。		知・技	50	39	↓
	(5)イ(ア)		(3)	条件に該当する断面図を選択している。		思・判・表	50	41	↓
5学年	(1)ア(ア)	6	(1)	吹き出しの内容を読み取り、資料1と方位を関連付け、適切な名称を指摘している。		知・技	80	49	↓
	(1)ア(ア)		(2)	平野や盆地、台地などの平らな土地のことを平地と呼称することを理解している。		知・技	70	52	↓
	(1)イ(ア)		(3)	県の地理的環境の特色の理解に基づき、2つの資料を比較・関連付け、適切な内容の説明を選択している。		思・判・表	60	66	↑
5学年	(1)ア(イ)	7	(1)	帯広	帯広の気候の特色を表す雨温図を指摘している。	知・技	50	64	↑
	静岡			静岡の気候の特色を表す雨温図を指摘している。	知・技	60	48	↓	
	(1)イ(イ)		(2)	八戸市が弘前市と比べて冬に雪が少ない理由を、資料を関連付けて説明している。		思・判・表	50	36	↓
5学年	(1)ア(ア)	8	(1)	ユーラシア大陸の位置と名称を理解している。		知・技	70	68	－
	(1)ア(ア)		(2)	日本と同じ緯度にある国を資料から読み取っている。		知・技	70	61	↓
	(1)イ(ア)		(3)	日本の国土の特色の理解に基づいて、資料から、日本以外の海洋国を選択し、その特色を説明している。		思・判・表	60	50	↓

A設定通過率とB通過率を比較する際は、下記により判断する。

+5ポイントより上の場合：「↑」 ±5ポイントの範囲内：「－」 -5ポイントより下の場合：「↓」

評価の観点	知・理	思・判・表
A設定通過率	66	55
B通過率	68	55

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内		西 北 管 内					
			青森市	東郡	五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	(1)	ア	70	69	69	60	67	66	72	66
		イ	70	70	71	57	66	69	66	64
		ウ	70	93	93	90	93	95	92	92
	(2)	市と関係機関の協力の説明	50	81	81	73	85	83	91	83
2	(1)	資料1	80	96	96	95	97	97	97	97
		資料2	80	94	94	94	93	94	92	94
	(2)	①	80	69	69	59	73	67	84	74
		②	50	70	71	53	70	71	74	68
3	(1)	条件に該当する地図記号の指摘	80	90	90	91	91	91	93	89
	(2)	条件に該当する地図上の場所の指摘	60	76	76	69	78	78	83	76
	(3)	条件に該当する地図上の道順の説明	50	70	70	62	71	70	75	70
	(4)	人が集まる場所の指摘と理由の説明	60	47	47	39	52	46	66	50
4	(1)	①	50	83	84	80	84	83	87	84
		②	50	43	43	33	40	38	43	40
	(2)	資料に基づく計画や工事の説明	50	62	63	53	58	59	60	56
	(3)	条件に該当するまとめの文の説明	50	28	29	14	30	27	38	29
5	(1)	等高線に基づく土地の高さの指摘	60	67	67	63	67	67	67	67
	(2)	流れが急な川の指摘と理由の読み取り	50	41	42	21	49	49	55	46
	(3)	条件に該当する断面図の指摘	50	41	41	37	44	44	48	41
6	(1)	条件に該当する場所の名称の指摘	80	51	51	42	51	52	57	46
	(2)	平地という用語の理解	70	56	57	31	61	63	71	53
	(3)	条件に該当する地理的環境の指摘	60	66	67	53	70	64	82	70
7	(1)	帯広	50	65	66	63	67	65	71	67
		静岡	60	48	48	41	50	48	54	50
	(2)	八戸市で少雪となる理由の説明	50	36	37	20	38	36	48	35
8	(1)	ユーラシア大陸の位置と名称の理解	70	69	70	55	72	68	80	72
	(2)	日本と同じ緯度にある国の読み取り	70	61	62	43	63	63	74	57
	(3)	海洋国の指摘と特色の説明	60	51	51	43	56	55	64	51
教 科 全 体			62	64	65	55	66	65	71	64

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
67	68	67	64	67	68	68	69	68	63	66	48	66	66	64	67
66	66	68	63	67	66	65	69	65	66	67	59	66	67	60	67
90	89	91	89	93	92	92	92	92	89	90	85	92	93	89	92
81	81	73	84	80	75	85	62	74	71	72	69	74	75	74	78
95	95	93	96	95	96	96	96	95	94	95	90	95	96	94	96
94	94	91	95	95	95	97	94	94	93	93	92	93	94	92	94
63	65	57	74	53	66	70	55	69	59	64	38	64	62	72	66
65	67	51	77	56	70	75	69	69	63	67	42	59	60	55	66
89	89	88	86	92	90	89	91	91	90	89	92	85	85	86	89
74	75	71	77	70	78	79	77	77	73	73	70	72	73	68	75
69	68	73	71	65	71	73	72	70	67	69	60	70	70	66	70
44	42	43	54	47	50	52	45	50	43	47	26	44	45	40	46
84	84	86	84	84	82	85	76	83	77	76	78	81	81	80	83
42	42	43	44	39	40	42	36	41	35	37	27	39	41	33	41
61	61	56	65	59	60	61	61	59	55	57	45	59	61	51	60
29	31	28	25	26	29	30	29	29	33	34	28	31	32	27	30
68	68	71	66	63	67	75	64	64	59	59	57	66	67	61	66
38	38	38	41	34	45	52	42	41	30	32	21	32	32	30	39
42	42	43	42	38	46	52	41	45	37	40	26	39	39	36	41
51	53	46	53	44	51	58	50	48	37	40	25	45	46	40	49
55	55	50	63	51	57	66	50	54	50	49	56	38	41	26	52
66	65	69	65	66	69	70	65	70	60	60	61	65	67	55	66
62	63	64	66	55	69	71	67	68	59	60	57	62	65	53	64
47	47	50	48	45	50	49	50	51	42	42	40	46	46	45	48
39	40	38	40	34	38	36	38	39	31	32	28	33	34	29	36
68	68	71	64	68	74	77	67	75	56	58	48	63	64	58	68
62	61	65	64	62	65	68	60	66	52	52	53	58	59	54	61
50	50	51	56	48	51	54	50	50	43	45	33	46	48	40	50
63	63	62	65	61	65	67	62	64	58	60	52	60	61	56	63

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例

問題番号		通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
3	(4)①②	46	西側と記述し、東側に人が集まる理由を記述(19.0) 方位ではない言葉を記述し、適切な理由を記述していない。(4.5) 東側と記述し、西側の特徴に着目し、適切に記述していない。(4.0) 方位は記述したが、理由は無答(4.0)
4	(3)	30	ア(42.5) イ(17.5) 無答(7.5)
5	(2)②③	39	春川・理由を適切に記述していない(等高線が多いから、山頂に近いからなど)(24.0) 夏川・理由を適切に記述していない(14.5) 無答・理由も無答(8.5)
6	(1)①	49	八甲田山(11.5) 無答(9.0) 津軽平野(8.0)
	(1)②		津軽平野(9.0) 無答(7.5) 平地(4.0)
7	(2)①	36	東(16.0) 無答(6.5)
	(2)②		季節風(29.0) しめった風(11.0) 無答(6.5)

エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 ⑤(2)

○出題のねらい

2つの川の上流における等高線の間隔に着目して、間隔の狭い方の川を指摘し、条件の言葉を使って、その理由を説明する問題である。

出題の意図は、令和元年度の分析において、斜面の急なコースについて「等高線」と「かたむき」という2つの言葉を使って説明する問題として出題したが、等高線の間隔と傾斜の関係を適切に表現する力に課題が見られたため、流れが急な川を指摘し、「等高線」という言葉を使ってその理由を説明する問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、等高線の間隔に着目せず、山頂付近の川の始まりの位置に関する内容の誤答が多かった。

課題として、視覚的に等高線の様子を捉える経験が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、地図資料の活用と併せて、等高線の意味や読み取り方について理解するための技能を視覚的・体験的な活動を通して身に付けさせていく必要がある。等高線については、立体的に捉えさせる工作的な活動を取り入れた活動を指導計画に意図的に位置付け、発達段階を考慮しながら継続的に指導していくことが大切である。

指導例

工作的な活動を取り入れた等高線の意味や読み取り方の指導 ～単元名「きょう土の伝統・文化と先人たち」(第4学年)～

【指導の流れ】

1 地図資料の活用と工作的な活動を通して、土地の様子を立体的に捉えさせる。

学習活動① 白地図と陰影入りの地図を土地の高低差に着目し、見比べ、等高線について知る。



地図1 白地図



地図2 陰影入りの地図

3D鳥瞰図やデジタル標高地形図なども活用しながら、多様な視点で土地の高低差のイメージを捉えさせる。

※ここでは、「地理院地図Vector」を活用し、白地図と高低差の分かる地図を提示しているが、既習の白地図や地形図などを活用する方法もある。



2つの地図を見比べて、土地の高さについて気が付いたことはありますか。

地図1からは、どこが高いか分からないけれど、地図2を見ると、濃い緑色が高いところである理由が分かります。



土地の高低差を見るには、地図2の方が分かりやすいですね。県内には、岩木山や八甲田山など高い山がありますが、どちらが高いですか。

山頂に▲のマークがあり、数字が書かれています。岩木山の方が高いです。



地図2では、山のイメージはしやすいけれど、斜面の様子など、どこがどのくらい高いのか分かりづらいです。





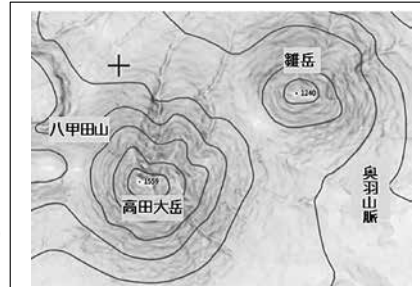
地図3は、八甲田山の辺りを拡大した地図です。地図2と比べて気が付いたことはありますか。

木を輪切りしたときのような線があります。

天気予報で同じような線を見たことがあるけれど、高さを表している線だと思います。



等高線は、土地の高さを地図に表すために考えられたものです。同じ高さの所を線で結び、その土地の高低の様子を表しています。

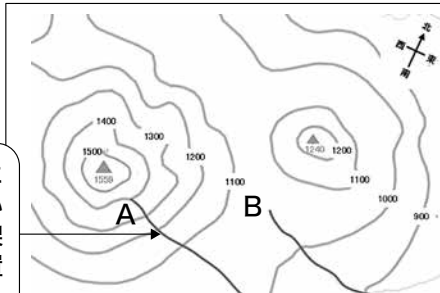


地図3
等高線入りの八甲田山高田大岳
付近の拡大地図

学習活動②

工作的な活動を通して、等高線で示された土地の様子を立体的に捉える。

川の緩急についての問いも想定し、架空の川を設置している。



地図4 等高線で示した地図



等高線マップ模型 (斜めから撮影)



地図4は等高線で示した地図です。八甲田山付近の様子を模型に表してみましよう。

模型を作ってみたら立体感があって、山のイメージがつかめました。



AとBの2つの川を比べて、気が付いたことはありますか。

等高線の間隔がせまいので、Bの川よりもAの川の流れが急だと思います。

ポイント

- ・等高線の指導では、地図や土地の高低差に関心をもたせ、工作的な活動を取り入れながら立体的に捉えさせる。
 - ・「等高線マップ模型」の作成に当たっては、見本と手順を示し、個人やグループで作業させる。その後、完成した作品を真上や斜めから見させ、気づきを発表させる。
- ※「等高線マップ模型」は、弁当パックの透明のふたを利用し、地図4の下絵を基に、等高線の低いものから1枚ずつ写し取って重ねたもの（間にストローなどをはさむ）である。

2 断面図をかくことを通して、等高線と断面図の関係を捉えさせる。

学習活動

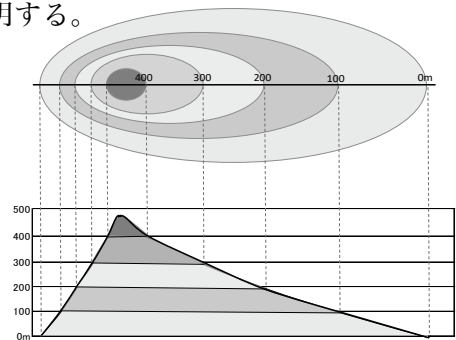
断面図をかき、等高線の間隔と傾きの関係を説明する。



地図の等高線を利用して、土地の高低を真横から見た図（断面図）をかきましょう。

等高線の間隔と山の傾きについて、どのようなことが言えますか。

等高線の間隔がせまいと傾きが急で、間隔が広いと傾きがゆるやかです。



ポイント

断面図をかかせる際には、はじめに教師が手順を示す。指導例1で作成した「等高線マップ模型」も活用しながら等高線の間隔と傾きの関係を言葉で表現させる。

○課題の見られた問題 7(2)

○出題のねらい

青森県の地形と季節風の風向きを表す2つの資料から、八戸市の冬の降雪量が少ない理由を説明する問題である。

出題の意図は、令和元年度の分析において、複数の資料を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特色や相互の関連などを多角的に考え、表現する力に課題が見られたため、複数の資料を関連付けて得られた情報を基に考え、表現する問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、地形と季節、風向き、気候の特色を総合的に捉えることができなかつた児童が多かつた。原因として、必要な資料を適切に選択したり、複数の資料を関連付けて読み取ったりすることができなかつたと考えられる。課題として、複数の資料を比較したり関連付けたりして得られた情報を基に、多角的に考える力が不足していると考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、複数の資料を比較したり関連付けたりして得られた情報を整理してまとめ、課題を追究するために多角的に考える場面を意図的に取り入れることが大切である。

指導例

複数の資料を関連付けて、得られた情報を基に多角的に考える指導の工夫

～単元名「国土の気候の特色」(第5学年)～

【指導の流れ】

1 日本の気候の特色を表す6つの「気温と降水量のグラフ」(以下「雨温図」という)を地図上で分類させる。

学習活動

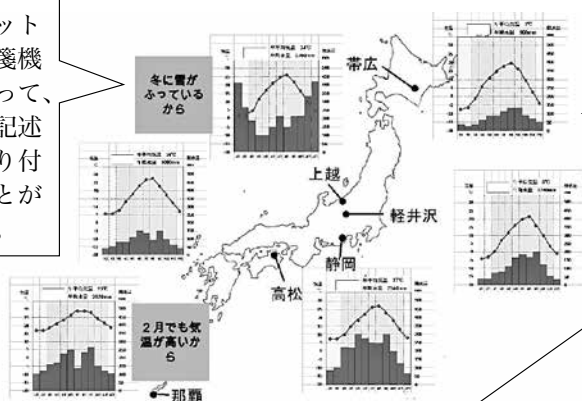
特色ある気候の代表的な都市の四季を表す写真資料を参考にしながら、その都市の気候を表す雨温図を分類するとともに理由を記述し、交流する。



6つの雨温図カードは、それぞれどの都市の気候の特色を表しているでしょうか。また、そう考えた理由を説明しましょう。

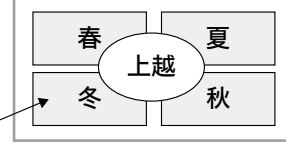
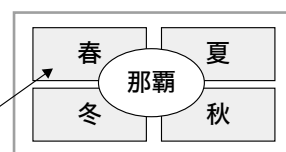
《ICTによる1つの画面で共同作業できる機能を活用する例》

タブレット等の付箋機能を使って、理由を記述し、貼り付けることができる。



雨温図を指で動かすことができる。

特色ある気候の代表的な6つの都市の四季を表す写真資料



那覇の春の写真では、2月に花が咲いているので、2月の気温が高い雨温図が那覇のものだと思います。

上越の冬の写真では、冬に雪が降っているので、12月や1月の降水量が多い雨温図が上越のものだと思います。



ポイント

- ・雨温図と写真資料を関連付けることにより、雨温図が表す気候の特色をイメージさせる。
 - ・タブレット端末の共有機能を活用する際は、雨温図を動かせるようにする。
- ※例のように、ICTを活用することでより効率的に活動させることができる。

2 複数の資料を関連付けて読み取り、分かったことを整理してまとめ、地域により気候の特色が異なる要因を考えさせる。

学習活動

日本の気候に影響を与える自然環境を表す複数の資料を関連付けながら考え、その地域に見られる特色ある気候の要因を説明する。

日本では、なぜ地域によって異なる気候が見られるのでしょうか。

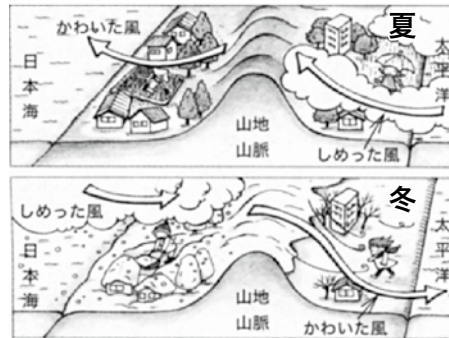


それぞれの都市の雨温図が表す気候の特色は、どのような自然環境と関係しているのでしょうか。雨温図や資料から考えて説明しましょう。

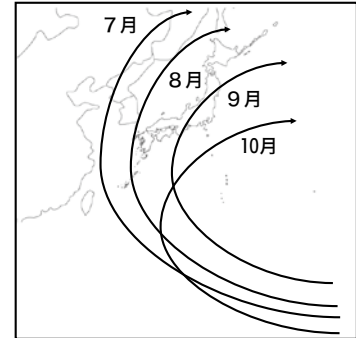
資料1 日本の山地



資料2 季節風



資料3 台風の進路



資料1から、日本の中央には多くの山脈があることが分かるわ。



資料2から、夏と冬では季節風の吹く向きが違うことが分かるね。



資料1と資料2から、日本の中央にある山脈と季節風の吹く向きが関係して、季節によって日本海側と太平洋側の気候が違うのね。

資料4 南北の気温の変化

赤道（ジャカルタ）
年平均最高気温 32.1℃
年平均最低気温 26.0℃



北極（北極点付近）
年平均最高気温 -16.2℃
年平均最低気温 -19.7℃

資料3から、夏から秋にかけて台風が多く来ることが分かるね。



資料4から、日本は北に行くほど気温が低くなることが分かるわ。

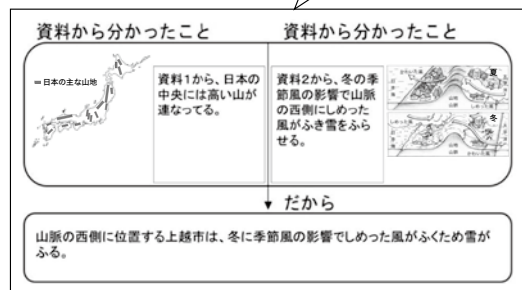


《調べたことを整理してまとめ、説明するためにプレゼンテーションソフトを活用する例》

教師がプレゼンテーションソフトでワークシートを作成し、児童のタブレット端末に配付する。

資料を貼り付け、資料から分かったことを整理してまとめる。

プレゼンテーションソフトの機能を活用し、説明する。



ポイント

複数の資料を関連付けて得られた情報を整理してまとめ、分かったことを基に、その地域に見られる気候の特色の要因を説明させる。

※ICTを効果的に活用し、資料を提示しながら考えたことを説明させる。